聖霊があなたに降(くだ)り

ルカによる福音書　１：２６－３８

司祭　ヨハネ 井田　泉

2023 年 12 月 24 日
降臨節第 4 主日

京都聖三一教会にて

神さまは、世界と人類を救おうとされる大きな計画のためにひとりの女性を選ばれました。名前はマリア。年齢は十代半ば。ヨセフと婚約中の身です。

天使ガブリエルがマリアのところに遣わされます。

「天使は、彼女のところに来て言った。『おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。』」ルカ 1:28

マリアはひどく戸惑いました。いったいこの挨拶は何のことか。

「すると、天使は言った。『マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。……』」1:30-32

マリアは天使に言いました。

「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに。」1:34

天使は答えて言いました。

「聖霊があなたに降(くだ)り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になって

いる。神にできないことは何一つない。」1:35-37

ここでガブリエルがマリアに告げた**「聖霊があなたに降り」**という言葉に注目しましょう。人間の思いと力を超えた神ご自身の働きが聖霊です。人の目を驚かせる超能力というのではなくて、神が人を愛してやまないがゆえに、神が人を、人類を、世界を救おうとして発動される愛の力です。ただ力というのではなくて、生きて働く主体です。

「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。」

この礼拝の中で、わたしたちはニケヤ信経でこのように信仰を告白します。

「主はわたしたち人類のため、またわたしたちを救うために天から降(くだ)り、聖霊によっておとめマリヤから肉体を受け」

神の子、救い主イエスは、人間である母マリアから生まれるのですが、それは聖霊によるのです。いと高き方である神の力によるのです。

ガブリエルの言葉を聞いたマリアはとても当惑し、恐れました。けれどもマリアは、恐れと葛藤の後に、やがてガブリエルの言葉を神の言葉として受け入れます。

「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」1:38

マリアは精一杯の真実をもって天使に答えました。このようにマリアを主に従う決意に導いたもの、恐れも不安も超えてマリアが一切を神にゆだねるようにさせたもの。それは聖霊です。

神の子がマリアの胎に宿ること自体が聖霊のわざなのですが、そればかりではなく聖霊はマリアの恐れと葛藤と祈りを受けとめつつ、それを祝福して神の目的へと導く。聖霊はマリアを変えていくのです。同じ聖霊がわたしたちにも働いてくださるようにと願います。

新約聖書のクリスマスの物語を注意して読んでみると、聖霊、神の霊の働きが何ヵ所にも語られています。

一つ目の例は、祭司**ザカリア**です。天使ガブリエルはマリアのところに来る6ヵ月前、その親戚である祭司ザカリアのところにやって来て、ザカリアの妻エリサベトが男の子（後の洗礼者ヨハネ）を産むことを告げました。そのとき、ガブリエルはザカリアにこう言いました。

「その子は既に母の胎にいるときから聖霊に満たされている。」ルカ 1:15

このお告げをザカリアは信じなかったので、事が実現するま

で、彼はガブリエルによって口を封じられます。やがて子どもが誕生しました。その名前を付けることになったとき、ザカリアは天使から聞かされたとおり板に「この子の名はヨハネ」と書きました。そのとき、彼の口は開かれました。すでにザカリアは神を信じて従う者に変えられていたのです。ザカリアは神を賛美して歌います。

「父ザカリアは聖霊に満たされ、こう預言した。『ほめたたえよ、イスラエルの神である主を。……』」ルカ 1:67

ザカリアに聖霊は働きかけました。

二つ目の例は、ザカリアの妻**エリサベト**です。マリアが天使のお告げを聞いて親戚のエリサベトを訪ねたときのこと。同じルカ福音書こう記されています。

「マリアの挨拶を聞いたとき、その胎内の子がおどった。エリサベトは聖霊に満たされて、声高らかに言った。『あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。……あなたの挨拶のお声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました。』」ルカ 1:41-44

マリアの胎内の子イエスと、エリサベトの胎内の子ヨハネの出会いの場面です。

エリサベトは聖霊に満たされ、聖霊に動かされてマリアの支

え、力となりました。

三人目。マリアの婚約者、やがてイエスの父親の役を果たす**ヨセフ**はどうだったでしょうか。ヨセフは婚約者が身ごもったとき、自分の身に覚えのないこのことを到底受け入れることはできず、苦しんだ末マリアをひそかに離縁しようとしました。ところが彼の夢に主の天使が現れてこう言いました。

「ダビデの子ヨセフ、恐れずあなたの妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。」

マタイ 1:20

ヨセフは眠りから覚めると、天使が命じたとおりマリアを彼の妻として迎え入れました。聖霊がヨセフに働いたとは直接書かれてはいません。しかしヨセフが自分の考えをまったく変えてマリアを迎える決断をしたことの中に、聖霊が働いていたに違いありません。

イエスのマリアからの誕生そのものが聖霊の働きによるものでしたが、それだけではなく、イエスの誕生をめぐって、聖霊はザカリアに働き、エリサベトに働き、またヨセフに働きました。聖霊は人の恐れ、困惑、葛藤の中にも浸透して、それを変えていく。聖霊は人を、神さまの働きに巻き込んでいくのです。

このクリスマスに当たって聖霊のことを話しつつ、わたしの中に起こってくる願い、祈りがあります。皆さんの中にも同じ思いが起こってくることを願います。それは、マリアに働き、ザカリア、エリサベト、ヨセフに働いた聖霊が、わたしたちにも働いてほしい、ということです。

クリスマスは聖霊が働いてくださる時です。

クリマスマスを、昔から知っている当然のこととして祝うことで終わりたくありません。神がわたしたちを救うために、聖霊によって特別な、決定的なことをしてくださった。それに驚きたい。聖霊が、神のわざに対する驚きと感謝をわたしたちのうちに起こしてくださいますように。

マリアに告げられた天使ガブリエルの言葉をわたしたちも聞きます。

「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。」

同じ聖霊がわたしたちにも降ってほしい。いと高き方の力がわたしたちを包んでほしい。そして聖霊がわたしたちをあらたに神の子としてくださいますように。

聖霊がわたしたちを失望と疑い、葛藤から救い出して、希望

と勇気を与えてくださいますように。この暗い時代に、神は新しく何かを行おうとしてわたしたちに働きかけられるに違いありません。

　聖霊がわたしたちの中に宿り、喜びをもって主のために、隣人のために良いことをしようという思いを与えて、またそれを実行させてくださいますように。主のみ名によってお祈りします。アーメン